

『移住』×『農業』関心高める

能代市人口政策・移住定住推進室が企画した「能代農業探訪」（農業移住体験ツアー）が3月17日からの2泊3日の日程で行われました。

このツアーには、首都圏在住で、これまで能代市には縁がなかった20代〜50代の会社員や専業主婦など、男女8人が参加しました。

一行は、白神ねぎや白神山うどなどの収穫や出荷調整作業を体験したほか、能代市の郷土料理の調理体験をした後、その味を堪能。



ツアー参加者に収穫を体験指導するJA青年部員

能代市の農業事情や支援制度、農業者の暮らしを体験してもらうことが目的の本ツアーを企画担当した同市人口政策・移住定住推進室小野さくら副室長は「農業に興味を持ち、移住を考える方は全国に大勢いるが、同市への移住を呼びかけるだけでは、判断材料にもならない。実際に訪れてもらい、同市の魅力を感じてもらおうことで、移住先を選択する際に、選択肢の一つになるきっかけになってもらいたい」と本ツアーの効果に期待を込めます。

インスタグラムで「白神山うど」の写真を見て「収穫体験したい」と、ツアーに参加した東京都在住の50代女性は「山うどが大好きで、収穫を楽しみにしていた。作業を指導してくれたJA青年部の方の、農業に対する熱い思いにも感銘を受け、益々農業に関心をもった」と話してくれました。

一行は、農業体験のほか、旧料亭金勇や、バスケットボールミュージアムなど能代の名所見学などを行い、能代市の魅力を十分に感じとっている様子でした。



りんご選果場の従事者が作業を指導される白神ねぎ生産者ら

全国初！ 労働力の県間調整にチャレンジ！！

JAあきた白神と、JAつがる弘前（代表理事組合長天内正博・青森県）との県を超えた単一JA間による初の労働力調整事業がこのほど着手されました。当組合管内では、近年「白神ねぎ」の生産が順調に拡大し、年々販売額を伸ばす一方、この出荷調整に係る労働力不足と確保が課題となっています。

出荷最盛期となる7月から12月の季節労働者の確保が困難を極める一方、年間雇用するにも1月から3月の農閑期の労働者

に対する報酬確保が課題となっていました。

そこで、秋田県農業労働力サポートセンターと協議を進め、東洋最大級となるりんごの選果場を運営するJAつがる弘前の従業員雇用の事態に着目し、冬季間の就労を試験実施。白神ねぎを生産する3経営体から4人の従事者を試験的に派遣し、りんご選果場での作業に当たりました。

本事業を推進する営農部担当者は「この事業が軌道に乗ること、当JA管内の農業法人だけでなく、およそ300人の臨時・常時従事者がいる。年間雇用が確保されることで、労働者への賃金の維持向上も保障され、「白神ねぎ」の生産規模拡大にも更に拍車がかかることとなる」と事業の本稼働に期待を寄せます。

両JAの協議では、それぞれの宿泊先の確保など山積する課題を解消しながら、2024年1月に当組合から従事者をりんご選果場へ派遣し、7月頃から白神ねぎの生産現場にりんご選果場の従事者を迎え入れる本稼働を目指すとしています。

4月から新たに仲間となった 新規採用職員をご紹介します。

3人の新規採用職員から、JA職員としての意気込みや、目標を語っていただきました。

3人の新規採用職員は、成功と失敗を繰り返しながらも、各配属先で精一杯頑張りますので、組合員・地域住民の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



金融共済部



私は、社会人を経験しておりますが、新社会人の方々と同じ気持ちで業務にあたり、新たな分野で今まで培ったスキルを十分に発揮したいと思います。

旅行が趣味の私は、47都道府県踏破することが夢です。今最も行ってみたいところは、友人が住む新潟県佐渡市です。



金融課 田口英枝

営農部



藤里営農センター 田村龍騎

まずは、自分の業務を覚えることに全集中で取り組みます。そして、組合員の皆様への思いやりと、配慮を忘れることなく、信頼されるJA職員を目指します。

プライベートでは、お世話になった家族への恩返しで家族旅行に連れていきたいと思っています。

JA職員の一員となれた今この瞬間の気持ちを忘れることなく、『初心忘るべからず』の精神で、任せられた仕事は最後までやり遂げる職員を目指し頑張っていきたいと思っています。

趣味は、コンピューターゲームやビデオゲームなどをスポーツ競技としてとらえる「e-sports」です。



能代営農センター 若狭匡太郎